

[平成28年度 地域創造学賞]

## 富山型デイサービスの居場所としての効果

上 里 奈  
山崎 友未奈

### 目 次

#### 第1章 研究の背景と目的

#### 第2章 富山型デイサービスをめぐる概況

- 2-1 富山型デイサービスと共生ケア
- 2-2 富山型デイサービスの展開
- 2-3 高齢社会における居場所

#### 第3章 複数の富山型デイサービスの比較検討

- 3-1 調査の概要
- 3-2 富山型デイサービスと一般のデイサービスの比較
- 3-3 3ヶ所の富山型デイサービスの比較

#### 第4章 富山型デイサービス事例での参与観察調査

- 4-1 インタビューの概要
- 4-2 調査の結果
- 4-3 参与観察による事例の実態
- 4-4 考察

#### 第5章 調査結果のまとめ

#### 第6章 結論

### 第1章 研究の背景と目的

#### (1) 研究の背景

日本は少子高齢化が進み、平成27年には65歳以上の高齢者人口は、過去最高の3,392万人（前年3,300万人）となり、総人口に占める割合（高齢化率）も26.7%（前年26.0%）と過去最高となった。高齢者人口は今後、「団塊の世代」が65歳以上となる平成27(2015)年には3,395万人となり、平成37(2025)年には3,657万人に達すると見込まれている。また、介護保険制度における要介護者又は要支援者と認定された人のうち、65歳以上の人の数についてみ

ると、平成25（2013）年度末で569.1万人となり、急速に増加している\*<sup>1</sup>。そして、デイサービス利用者数は約160万人で、介護保険の利用者の約3人に1人は利用していることになる\*<sup>2</sup>。

そのような中、平成27年4月に介護保険制度が改正された。これは団塊世代が75歳以上となる2025年までに、介護業界の新たな受け入れ態勢を整備することを目的としている。そのため、厚生労働省は介護予防・日常生活支援総合事業を進めている。これは、2005年の介護保険法改正から始められた医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けた改革の一つとなっている。そして、その実現には、自助・共助・互助・公助をつなぎあわせる（体系化・組織化する）役割が必要とされ、特にボランティアの支援や地域住民の取り組みが重要だと考えられている\*<sup>3</sup>。

こうした中、今、富山型デイサービスが注目されている。

富山型デイサービスとは、介護保険利用者や障害者保険利用者など対象者を限定せず、地域の身近な場所でサービスを受けることができるデイサービスのことで、利用者が概ね15人程度といった小規模さと、民家を改修した施設など、家庭的な雰囲気の中、その人に合わせた介護をすることをめざしている。

本研究で、富山型デイサービスに注目したのは、年齢や性別、障害の有無に関わらず誰もが利用できるサービスであること\*<sup>4</sup>、高齢者が赤ちゃんや小さい子供のお世話をしたり、障害者がスタッフのお手伝いをしたりすることがあるなど、異世代での交流ができるという点である。このような考え方もつ場所が介護の場としてだけではなく、地域の居場所として有効ではないかと考えたからである。

## (2) 研究の目的

このようなことから、本研究の目的として挙げられるのは二つある。一つ目は、県内の富山型デイサービスと一般のデイサービス施設を比較し、利用者構成やサービス等の運営面の違いを明らかにすること、県内の富山型デイサービス3施設を比較し、それぞれの長所や短所から富山型デイサービスの考え方の特徴を明らかにすることである。

二つ目は、富山型デイサービスの運営の実態から富山型デイサービスが与える効果がどのように居場所づくりに関係してくるのか、またどのような居場所になっているのかを考察することである。

## 第2章 富山型デイサービスをめぐる概況

### 2-1 富山型デイサービスと共生ケア

1997年7月、惣万佳代子さんら3人の看護師で創業された富山市にある民間デイサービス事業所「このゆびとーまれ」が初めての富山型デイサービスである。

平野隆之(2005)によると、共生ケアとは、「①地域のなかで当たり前前に暮らすための小規模な居場所を提供し、②利用の求めに対しては高齢者、子ども、障害者という対象上の制約を与えることなく、③その場で展開される多様な人間関係を、共に生きるという新たなコミュニティとして形づくる営み』である、とされている\*<sup>4</sup>。

富山型デイサービスの効用として、富山県厚生部厚生企画課（2013）『とやまの地域共生』

によると、「①高齢者にとって子供と触れ合うことで、自分の役割を見つけ、意欲が高まることによる日常生活の改善や会話の促進の効果、②障害者にとって居場所ができることで、自分なりの役割を見出し、それが自立へとつながっていく効果、③児童にとってお年寄りや障害者など他人への思いやりや優しさを身につける教育面の効果、④地域にとって地域住民が持ちかけてくる様々な相談に応じる、地域住民の福祉拠点としての効果」が挙げられており<sup>\*5</sup>、高齢者・障害者・子どもが同じ空間にいることによって相互作用やメリットがあるということが言える。

## 2-2 富山型デイサービスの展開

今日、一般的なデイサービスの課題として、「その昔、施設が決まった時間に食事やトイレをさせて、『業務に利用者の生活を当てはめている』と批判されていた」<sup>\*2</sup>というように、利用者に決まったことをさせていたという指摘があった。

これに対し、国の社会保障審議会の「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の趣旨には、「介護保険法、障害者総合支援法、子ども・子育て支援新制度など、各制度の成熟化が進む一方で、人口減少、家族・地域社会の変容などにより、既存の縦割りのシステムには課題が生じている。具体的には、制度が対象としない生活課題への対応や複合的な課題を抱える世帯への対応など、ニーズの多様化・複雑化に伴って対応が困難なケースが浮き彫りになっている。」とされている。また、暮らしと生きがいとともに創る「地域共生社会」の好循環として、子どもは「高齢者などと日常的に関わり合いながら暮らし、健全な成長に効果」があるとされ、高齢者は「子育て支援などで役割を持つことが、(介護)予防に効果」があるとされ、障害者は「活躍する場を持つことが自立・自己実現に効果」があるとされており、その実践例として富山型デイサービスが挙げられている<sup>\*6</sup>。

現在における富山型デイサービスの事業所数は、計15市町村の95事業所である。平成15年11月、「富山型デイサービス推進特区」の認定により、高齢者と障害児(者)の垣根が低くなった。高齢者と同じ空間で家庭的なサービスを受ける障害児(者)にも特例措置として国の公的な制度が適用されることとなり、身近な地域で区別なく福祉サービスを提供する「富山型デイサービス」の普及に弾みがついた。この「富山型デイサービス推進特区」で適用された特例措置は、平成18年10月から全国において実施できるようになった。これまで宮城県、秋田県、千葉県、長野県、岐阜県、滋賀県、徳島県、熊本県などが「共生ケア事業」に取り組んでいる<sup>\*4</sup>。

「富山県高齢者保健福祉計画」によると、「比較的小規模な民家等を利用して、高齢者、子供、障害者などを一緒にケアする富山型デイサービスの設置数は着実に増加(平成20年度と比較すると1.56倍)していますが、まだ多くの利用者ニーズがあることから、引き続き設置を支援していく必要があります。」とされている。また、地域に密着した在宅サービスの充実として、「身近な地域での地域型サービス等の整備を推進するとともに、家族介護支援、生活支援、在宅支援機能等の充実・強化を図る」という施策の方向性のもと、県が「富山型デイサービスの施設整備に対する補助、起業家育成講座の開催等」という施策を進めている<sup>\*7</sup>。

## 2-3 高齢社会における居場所

一方、少子高齢化によって、人々のつながりが希薄化している。高齢者は、特に自宅に

引きこもりがちになり、孤立につながってしまう。そこで、高齢者には自宅以外に人々と交流する居場が必要とされるようになり、また、地域においても意識してつながりをつくらなければならないようになった。唐津浩(2012)『超高齢社会における高齢者の社会的孤立についての考察』奈良文化女子短期大学紀要によると、身体機能の衰退等の諸要因が引き金となって高齢者を社会的孤立へ導くと述べている\*<sup>8</sup>。しかし、加齢に伴う変化を回避することは困難であるため、これらの要因を前提とし、高齢者を改めて社会と結びつけることを促進させる必要があると述べている。

### 第3章 富山型デイサービスの比較分析

少子高齢化の現状から、これからの地域の在り方を考える際に在宅支援が重要であり、その中でも、富山型デイサービスが提供するサービスは、住み慣れた地域での共生の居場所という点でこれからの地域におけるヒントになるものと考えられる。本章では、富山型デイサービスの特徴を明らかにするため、一般型デイサービスと富山型デイサービスの違いと、複数の富山型デイサービスの運営の実態を把握した。

#### 3-1 調査の概要

県内の富山型デイサービスと一般のデイサービス施設を比較し、利用者構成やサービス等の運営面の違いを明らかにした上で、県内の富山型デイサービス3施設を比較し、それぞれの長所や短所から今後の課題を考え、富山型デイサービスの考え方の特徴を明らかにするために「富山型デイサービスに関する比較分析調査」を行った。

種類	一般型	富山型		
施設名	K	Wa	Ha	Ni
設立	平成24年7月	平成16年7月	平成28年4月	平成12年10月
場所	高岡市	高岡市	氷見市	富山市
周辺環境	・住宅地 ・商業施設 ・学校	・工場地帯	・国道沿い ・田畑 ・保育園	・住宅地 ・公園 ・公民館
営業時間	・8:00-18:00 ・日曜、年末年始休み	・8:30-17:30 ・日曜、盆、正月休み	・8:30-17:00 ・日曜、盆、年末年始休み	・8:00-18:00 (デイサービス) ・木～日曜 (ショートステイ) ・盆、正月休み
サービス事項	指定介護予防通所介護、指定通所介護	介護保険通所介護、日中一時支援、基準該当生活介護、基準該当自立訓練、基準該当放課後等デイサービス、基準該当児童発達支援、乳幼児・他一時預かり	居宅介護支援事業、通所介護事業、介護相談、自主事業、基準該当、放課後デイ、日中一時、児童デイ、生活介護、乳幼児一時預かり	介護保険通所介護、自立支援法（生活介護・自立訓練・児童デイ）、在宅障害者（児）デイケア事業、介護保険・自立支援法で利用可（泊まり）

インタビュー調査の方法は、事例への訪問によるヒアリングで、4ヶ所のデイサービスにそれぞれ2日ずつ訪問し、ヒアリング調査と観察調査を行った。調査期間は、平成28年9～10月である。

調査項目は、大きく(1)利用者(2)スタッフ(3)プログラムの3つに分けて比較した。調査対象は、一般型デイサービス1か所と富山型デイサービス3か所の計4か所で、①一般型デイサービス「K」(高岡市)、②富山型デイサービス「Wa」(高岡市)、③富山型デイサービス「Ha」(氷見市)、④富山型デイサービス「Ni」(富山市)である。

### 3-2 富山型デイサービスと一般のデイサービスとの比較

まず始めに、富山型デイサービスと一般のデイサービスの違いを明らかにするために、一般のデイサービス「K」と、富山型デイサービス「Ni」の2つを比較する。今回、「Ni」を3つの富山型デイサービスの代表として取り上げたのは、3つの調査対象の中で最も古く、初期の富山型デイサービスの考えを有しているためである。

#### (1) 利用者の比較

##### ①利用者数・居住地

利用定員について、KはNiと比べると定員がより多く、大規模な施設であることがわかる。また、Kは利用者が高齢者に限られているのに対して、Niでは高齢者以外に障害者や障害の有る子ども、障害の無い子どもの利用が見られた。登録者以外の利用に関しては、Niにおいて緊急の受け入れを行ったことがあるように、柔軟な対応を行っている。また、利用者の居住地をみると、Kでは、近所に住む利用者が多い。対して、Niの利用者は、「テレビで見かけてここへ来たいと思って来るようになった人や、誰かの知り合いであったり、家族がスタッフであったり、スタッフの子供が利用している」と代表が述べている。さらに、他のサービスの併用状況については、Niでは障害を持つ利用者が就労支援施設も併用して通っている場合が多い。

表3-1 利用者の種類と人数

	K	Ni
定員	1日 30名	1日 22名
利用人数 (その日の実績)	高齢者：24人 ・要介護度などの傾向 →介護度1,2の方や、認知症の利用者が多い。 介護度5の利用者はおらず、4でもしっかりとした人が来ている。	高齢者：5人 障害者：5人 子ども(障害有)：3人 子ども(障害無)：1人 計：14人
登録者 以外の 利用	事前に見学を行っている。 市から、体験利用をしないように通達があった。	初めて来る人は見学してもらう。 ショートステイ先を探していて、緊急で受け入れたことはある。
居住地	高岡市内の近所	富山市の端から端
併用 状況	ケアマネとの調整などをしつつ、他のデイサービスや、ヘルパー等を利用している利用者が多い。	他のサービスとの併用をしている利用者は少なく、毎日利用されている人も多い。 障害を持つ若い利用者の中には、平日はB型就労支援施設へ通っている人が多い。

## ②利用による変化や傾向

ともに、利用者が家事等において自分の役割を持つことで、良い影響が出ている。特にNiにおいては、高齢者・障害者・子どもが混在していることで、見守りやお世話など、相互に役割が生まれやすいという特徴がある。利用者に見られる傾向について、Kでは介護度の軽くしっかりした利用者が多いため、利用者間のコミュニケーションが問題なく行われている。それ対し、Niでは認知症の進んだ高齢者が多く見られたり、障害を持つ利用者が多かったりと、利用者間だけではコミュニケーションが上手くとれない場面が多く見られる。

表3-2 利用者の変化や傾向

	K	Ni
変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コップ洗いや掃除などを積極的に手伝い、それを利用者は役割や自分の仕事として捉えている。</li> <li>・テーブル拭き等を進んでいる様子も見られ、生活動作の一部としてリハビリになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者それぞれが自分の役割を持つようになる。</li> <li>・利用者による「見学事業」では、利用者自身にぎやかかのガイドを行ったり、さおり事業で作品をつくったり、リサイクル事業に取り組む利用者もいる。</li> </ul>
傾向	介護度の軽い利用者が多い。しっかりしている人が多いので、利用者間の交流もしやすい。利用者同士の話が盛り上がっていて、輪を広げることができる。	幅広い介護度の利用者、認知症の進んだ利用者、障害者、子どもなど。近年、障害の方の利用が増えている。

## (2) スタッフの比較

### ①体制

スタッフ1日の人数については、スタッフ1人当たりの利用者の人数は、Kでは3人、Niでは、2～2.8人であり（表3-1の利用人数参照）、Niの方がスタッフ1人が対応する利用者数が少ない。Niにおいては、有償ボランティアが料理や送迎を担当しており、スタッフ以外の人手があることでスタッフの負担軽減を図っている。

表3-3 スタッフの体制

	K	Ni
勤務体制	1日の人数：8人、全体の人数：13人	1日の人数：5～7人、全体の人数：16人 ※シフト制で、泊まりの担当もある
割り当て	風呂：（中2人/外2人） フロア：1～2人、食事：委託業者 常勤：12人 非常勤：1人 有償ボ：なし 年齢層：26～68歳	風呂：1人、案内：1人 フロア：3人、食事：2人 常勤：13人 非常勤：19人 有償ボ：4人（調理2人、送迎2人） 年齢層：20～78歳

### ②スタッフの属性

Niでは、障害者対応ができるサービス提供責任者がいる他、富山型デイサービスの職員研修を受けているスタッフがいる。スタッフの居住地は、Niにおいては富山型デイサービスであることを理由に遠くから来ている人や、富山に移住してきた人もいる。

表3-4 スタッフの属性

	K	Ni
所有資格	看護師：4人、介福：5人、 ケアマネ：持っていないでもよい PT/OT等(柔道整復師)：2人 生活相談員：1人 初任者研修：1人	看護師：3人、介福：5人、ケアマネ：3人 PT/OT等：1人 初任者研修：いない 生活相談員：4人、サービス提供責任者：1人
居住地	近くに住む人と、遠方の人(母体法人の人事異動)	富山市外の人がいる。 富山型デイサービスであることを理由に、東京など県外から富山に来た人もいる。
勤続年数	K設立前の施設からの人事異動が多いため、長く勤めている人が多い。	勤続年数は、長い方は長い。テレビで見て働きたいと思ってきた人や、型にはめられて同じことをやることに違和感をもった人、普通の生活を送りたいという考えに共感した人が長い。

## ③その他

事務作業については、Kでは事務担当が決まっているがNiでは事務をする人が介護スタッフを兼務することもあり、全体をより把握しやすくなっている。また、Niでは高齢者や障害者、時間等によって利用種別が全く異なるため、事務が煩雑であり、時間がかかっている。日誌をつけており、その日の利用時間や食事の有無等がまとめられているため、それをもとに事務作業をしている。安全性の確保については、Kでは施設内の研修によってスタッフのリスクマネジメントの質を向上している。Niでは、高齢者・障害者・子どもがいることによる危険への対処が必要になるが、その都度スタッフが見守り、家庭らしい雰囲気大切にしている。

表3-5 スタッフその他

	K	Ni
事務作業等	ここのスタッフが担当。 事務を担当する人が決まっている。	3人で担当しており、事務と介護スタッフ兼務の人もいる。 事務作業は時間がかかる。日誌をもとにしている。
安全性の確保	施設内研修：勉強会(年5～10回)、勤続年数によって受ける研修等 ・歩行器の人の危険確認、回り全体をよく見て、危険回避に努めている	富山型デイサービスの職員研修(年2、3回)に2人。高齢者、障害者、子どもが混在することで起こる様々な危険については、その都度対応している。

## (3) 運営方法・内容の比較

## ①1日の流れ

Kでは、1日の大まかな流れが決まっているのに対し、Niでは基本的に自由時間である。

表3-6 1日の流れ

	K	Ni
	8：00～ 送迎 10：00 サービス開始 入浴・リハビリ(希望者)、食前体操 12：00 昼食 13：00-14：15 お昼休み(休養) 14：15-14：30 ラジオ体操、棒体操 14：30-15：30 いくつかレクリエーションを行い、利用者の好きなどころに参加してもらおう(カラオケ、手芸など、日によって違う) 15：30～ お茶、おやつ 16：00～ 送迎	8：30～ 送迎 12：00～13：30 昼食 15：00～おやつ 16：00～送迎 - ※基本的に自由時間 ※送迎は利用者によって異なるため、何時から何時が送迎というような時間帯は決まっていない。 ※特別支援学校へ行っている子どもの利用者は、放課後からNiに来て、親の仕事の終わる17～19時頃まで預かる。

②サービス

食事について、Niでは有償ボランティアの役割が大きく、また利用者やスタッフも手伝いながら行っている。入浴について、Kでは午前中にまとめて行うのに対し、Niでは利用者の様子を見ながらゆっくり入ってもらうことができる。送迎について、Kでは大人数に対応できるようになっているのに対し、Niでは融通が利きやすくなっている。また、Kは運転専門スタッフがいるのに対して、Niではスタッフが送迎を行っており、時間はNiでは利用者によってバラバラになっており、その都度手の空いたスタッフが行っている。また、全体を通して、Kでは利用人数が多く、決められたプログラムを時間通りに進めることが重視されやすいため、利用者全体で動くときはそこにスタッフ大勢で就くことが多い。そのため、利用者の細かい要望に対応できないことがある。一方で、Niでは、プログラムが決まっておらずスタッフが分散して動いていることが多い。そのためスタッフは他の事に気を遣うことができ、利用者の要望に細かく応えることができている。また、他の一般のデイサービスが合わなかった人が、富山型デイサービスへ来て馴染んでいるということもあり、利用者の選択の一つにもなっている。

表3-7 サービスについて

	K	Ni
食事	時間：12：00-13：00 場所：フロアで食べる。利用者の座る席は決まっている。職員も間に入って一緒に食べる。誕生日の人を対象に、近くの寿司屋へ食べに行ったり、おやつにファミリーレストランへ行ったりもする。 準備や片づけ：委託業者 メニュー：管理栄養士が考えた献立	時間：12：00-13：00 場所：フロアや、隣の公園、ドライブ先 準備・片付け：スタッフ、利用者、有償ボランティア、ボランティア等 メニュー：有償ボランティアが考えてきている。ドライブ先で買ったものを食べたり、お土産を食べたりもする。
入浴	一般浴槽・チェアー浴槽。一般浴槽は、個室と大浴場の2種類。 時間：AMにまとめて行う。到着した順にその日の状況に応じて決める。	個室 時間：ひとりずつゆっくり入る。ショートステイの方やお泊りの利用者は、夜に入ることもある。

送迎	車台数：2台(7人乗バス/4人乗バス) 担当：運転専門スタッフを雇用 時間：大まかに決まっている。スムーズにいかないことが多いので、前後するとは家族に伝えてある。	車台数：3台 障害の有る子どもの利用者は、養護学校のバスの降車場所に迎えに行く。15～17時にNiに親の迎えが来る。 担当：有償ボランティアの男性2人や、スタッフが状況を見ながら行っている。 時間：希望の時間に合わせて、バラバラ。 時間表：ホワイトボードに大体の流れを書く。
個々人への対応	利用人数の多い中で、職員が充実していれば対応できるが、日によって人数が少ないと対応が大変なこともあるため、優先順位を考えながらしている。時々、利用者の要望に応じられないこともある。	重度障害の人でもお風呂は問題無く行っている。他のデイサービスで、ひどく暴れることが原因で断られて、ここへ来た人もいる。しかし、ここへ来たならそれがその人の個性であり、たいしたことではなかったりする。
家族の関わり	状況報告、連絡などは、送迎の際に伝えたり、電話で話したり、市の介護連絡帳に記入したりする。	利用者の家族が職員であったり、知り合いであったりと、何かと関係していることが多い。

### ③プログラム

自由時間の過ごし方は、Kではその日のレクリエーション担当の人が何をするか決めているが、他にしたいことがある人は個々でしている。Niでは、決められていることは何もなく、それぞれが自由に好きなことをする。今後の課題として、Kでは利用者の年齢の幅の広がりによる、利用者に合わせてサービスの個別性について、Niでは利用者のその人その人に合ったサービスがないといったことに触れている。

表3-8 プログラムについて

	K	Ni
自由時間	日によって違い、その日のレクリエーション担当が決める。他のことをしたい人は個々に対応している。	それぞれが好きなことをしている。送迎ついでにドライブや買い物に利用者が着いていたり自分の買い物をしたり等、自由にしている。
これまでの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに新しくできたサービス…①外食サービス②簡易カラオケから通信のカラオケに変えた③リハビリの平行棒を新しくした④運動器具を新しくした</li> <li>・今後やってみたいこと…午前中に、リハビリも入浴もしていない人が、手持ちぶさたになっている。その人たちの過ごし方について今後考えなければいけない。</li> <li>・要望はあるが現状として難しいこと…①トイレの数が少ない。設備的な面であるため、改善は難しい。②筋トレをしたいという要望。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに新しくできたサービス①ちーむむら…自立を目的にした活動②通い・泊り・住む→住み慣れた場所、通いなれた場所、慣れた場所で泊まれるようにしていった。</li> <li>・今後やってみたいこと…とくになし。</li> <li>・要望はあるが現状として難しいこと…なし。</li> </ul> <p>今まで、他の施設で型にはめられてきたことが多かった人たちが、ここでは言えばしてもらえるとこのことをここにきて気付く人が多い。そのため、スタッフが「こういうこともできるよ」と、その要望を引き出すことのほうが多い。</p>
今後の課題	利用者の年齢が80-90歳だったのが、60代から入浴が不自由な方が利用するようになった、90代で転倒して利用するようになったなど、60-90などの年齢の幅が広がった。それに合わせたサービスをするのが難しいと感じている。今後は個性が重要になってくると考えている。	決まったことをするのではなく、自然に共生している空間をつくるのが課題。利用者さんが相互に役割を持っていて、共生が成り立っている。 日常生活で自分の家にいる感じを支援する。しかし、その人の生活に寄り添ったサービスが、現実にはないのではないかと。

#### (4) 一般型デイサービスとの比較のまとめ

一般型デイサービス「K」と富山型デイサービス「Ni」の比較により、以下の違いが見られた。一つ目に、富山型デイサービス特有の利用者構成である。富山型デイサービスにおいては、高齢者・障害者・子どもが同じ空間に混在している。そのため、富山型特有の事故の危険性があったり、事務処理が大変になったりもするが、その都度スタッフが柔軟に対処することで解決している。二つ目に、一般型デイサービスでは症状が軽度の人利用が多く、利用者間の交流が活発であるのに対し、富山型では認知症の進んでいる人や障害の重さもバラバラであり、スタッフの見守りや対応が不可欠である。しかし、小規模であることで目が行き届いており、また、様々な利用者があるからこそ相互に自然と役割が生まれ、それが利用者の居場所につながっている。また、富山型ではスタッフが利用者への働きかけや見守りをすることによって利用者間の交流を促し、「自然と共生している空間」を意識してつくっている。三つ目に、小規模であるため柔軟な対応ができるということである。一般型では大人数であるため入浴や食事等、様々なサービスにおいて効率性が重視されやすい。しかし、ドライブや外出等のイベントにおいてはスタッフが前もって企画することで解消されており、一般型におけるサービスの充実が図られている。一方で、富山型においては、小規模であるため、様々なサービスにおいて、利用者一人一人に寄り添ったサービスが可能となっている。また、スタッフ数と働き方の工夫として、スタッフ1人当たりの利用者の人数は富山型の方が一般型よりも少なく、しかもスタッフ全員が同時に動くことが少なく、それぞれ散らばって試しているため、様々な場所や場面で利用者の小さな変化に気が付くことができ、細かい要望に応えることができる。

### 3-3 3ヶ所の富山型デイサービスの比較

次に、富山型デイサービスの利用者構成やサービス等における違いを明らかにするために、「Wa」、③「Ha」、④「Ni」の3ヶ所のデイサービスを比較する。

#### (1) 利用者の比較

##### ①利用者の属性

定員については、Wa、Ha、Niの順に多くなっている。利用人数（訪問日の実績人数）としては、WaとHaでは高齢者中心であるのに対し、Niでは、高齢者よりも障害を持つ利用者が多く見られた。登録者についても、WaとHaでは高齢者中心であるのに対し、Niでは障害を持つ利用者が多い。登録者以外の利用については、地域の人々が急に一時預かりの必要に迫られた際の受け皿として、今後活躍が期待される。Haではボランティアが週に3回程度来ている等、登録者以外の定期的な利用もみられる。また、3か所とも、職員の子どもの遊びに来ている。利用者の居住地については、WaとHaは比較的近いところに住んでいる人が多く、遠くから来ている人がいないのに対し、Niでは、テレビで見て来たいと思った人など、Niが富山型デイサービスであることを理由に市内の遠くからも来ている。

表3-9 利用者の種類と人数

	Wa	Ha	Ni
定員	1日15人	1日最大20人	1日22人
利用人数 (その日の実績)	高齢者：5人、障害者：1人 子ども(障害有)：1人 子ども(障害無)：0人	高齢者：10人、障害者：0人 子ども(障害有)：0人 子ども(障害無)：1人	高齢者：5人、障害者：5人 子ども(障害有)：3人 子ども(障害無)：1人
登録者	高齢者：不明 障害者：4人 子ども(障害有)：5人 子ども(障害無)：0人	高齢者：6人 障害者：0人 子ども(障害有)：1人 子ども(障害無)：0人	高齢者：18人 障害者：24人 子ども(障害有)：16人 子ども(障害無)：6人
登録者 以外の 利用	・前もって電話などしてもらいなど、事前に見に来る人が多い。まずは状況を聞いて対応する。利用方法は1h300円の自主事業。 ・職員の子ども	・必ず事前面接を行うようにしている。 ・ボランティアを兼ねて来られる人。週3回程度ボランティアで畑の手伝いに来る。 ・職員の子ども	・初めての人には見学してもらう。基本的に預かりではなく「最期まで見続ける」という考えがある。ショート先を探していて、緊急で受け入れたことはある。 ・職員の子ども
居住地	近所の人利用している。遠いが、ケアマネのおすすめで来ている人も1人いる。	皆近いところから来ている。娘の義理の親が入っていて、良かったから来られている方もいる。	富山市の端から端まで。テレビで見て、誰かの知り合い、家族が働いていた、スタッフの子供等、縁だと思う。

②利用による変化や傾向

利用者本人の変化として、3か所とも、利用者に食事の準備や片付け、洗濯物などで役割を与えてもらえることが、良い影響を与えていた。

地域の変化として、Waでは近隣が工場地帯のため、地域とのつながりが希薄であったが、介護保険制度の地域型への移行によって、施設の中まで入って実際に何をしているかを見てもらう機会ができた。スタッフは「地域の人に実際に見てもらい、それが人づてで伝わっていくことが大事ではないか」と述べていた。Haでは、施設が新しいこともあり、今後納涼祭などを行って地域と交流することを考えている。また、畑をやっていることがきっかけで地域の人との交流が生まれたということもあった。Niでは、見学事業として県外からの見学を受け入れており、最も外に開かれた事業をしている。

利用者の傾向として、3か所とも利用者の高齢化、重度化が見られるようになった。Niでは、平成22年から介護保険の利用者よりも、障害の利用者が上回った。また、入所希望が増えている。しかし、Niはあくまでも在宅介護を目的としているので断っており、在宅介護をしていたが、どうしても泊まりが必要になった人がNiの泊まりサービス(自主事業)を利用している。

表3-10 利用者の変化や傾向

	Wa	Ha	Ni
利用者 本人の 変化	施設に来た当初は精神的に落ち込んでいた人がここへ来て頼りにされたり、役割を与えられたり、親切にしてもらって、元気になったこと。	自主的に、洗いや食器を運ぶことを手伝っている。利用者にとっては、ここで必要とされることが嬉しく、利用者の役割や居場所につながっている。	利用者それぞれが自分の役割を持つようになった。「見学事業」では、利用者自身がにぎやかなガイドを行ったり、さおり事業で作品をつくったり、リサイクル事業に取り組む。

地域の 変化	工場地帯で、地域の認知度は昔から薄い。ししまいが2、3年くらい来ている。年に2回地域の人や利用者の家族、自治会長、民生委員等を呼んで、会議を開いている。	元々はたんぼだった。今後、夏に納涼祭などを行って地域の人を呼べたら良いと考えている。地域の人が、畑を見て畑のお世話をしたいとあって交流が始まったことがあった。	見学事業の受け入れ 様々なボランティアの受け入れ
傾向	利用者の高齢化、重度化。	高齢者の利用が多い。	障害者利用・入所希望の増加。

## (2) スタッフの比較

### ①スタッフの勤務体制

勤務体制については、利用者人数に比例して、全体のスタッフ数も多くなっている。しかし、1日の人数は3か所とも5人前後と大きな違いはなく、Niの利用者数に対するスタッフ1人の負担が大きい。Haでは、定期的にボランティアが料理担当で来ており、Niにおいても調理担当と送迎担当の有償ボランティアが来ている。

表3-11 スタッフの人数

	Wa	Ha	Ni
勤務 体制	1日の人数：5人 全体の人数：7人 ※シフト制	1日の人数：5～8人 全体の人数：11人程度 (他施設からの応援等を含む)	1日の人数：5～7人 全体の人数：16人 ※シフト制で、泊まり勤務有
割り 当て	常勤：4人 非常勤：3人 ボランティア：平均月1回 年齢層：30～70歳	常勤：6人 非常勤：5人 ボランティア：2人 年齢層：20～60歳	常勤：13人 非常勤：19人 有償ボランティア：4人 年齢層：20～78歳

### ②スタッフの属性

スタッフの資格についてはそれぞれ異なっている。富山型デイサービスで働くにあたり必要となる障害者の専門知識については、3か所とも富山型の研修を受けている。Waでは認知症や障害者についての各種研修を受けるなどして対応している。また、見守り中心のため、障害の有無で資格が必要になるということはないという意見もあった。スタッフの居住地については、WaとHaでは市内で近くから来ているのに対し、NiではNiで働くため、県外から引っ越して来ているスタッフもいる。スタッフが働いている理由については、Haでは富山型の小規模で自由なところに魅力を感じ転職してきたスタッフがあり、Niでは利用者と同様にテレビで見て働きたいと思って来たスタッフがいる。HaとNiでは、一般のデイサービスや福祉施設で型にはめられることに違和感を抱いて、富山型デイサービスを選択したスタッフが多い。

表3-12 スタッフの属性

	Wa	Ha	Ni
資格	看護師：4人、介福：4人 初任者研修：2人 生活相談員：3人 【研修】富山型の研修（全員） 認知症介護実践研修（3人）、 相談支援従事者初任者研修 （3人/障害系）、サ責（3人/ 障害）	看護師：2人程度、介福：2人 程度 その他：初任者研修 【研修】 富山型の研修(1人) 見守りが中心のため、障害の 有無で資格が必要になってく るとかは無い。	看護師：3人、介福：5人 ケアマネ：3人、PT/OT等：1人、 生活相談員：4人、サービス提 供責任者：1人 【研修】 富山型の研修(2人)
居住	全員が市内。	全員が市内。	市外や県外から来た人もいる。
就職の 動機	偶然ハローワーク等で知って 来た人がほとんど。	前の職場の業務的で流れ作業 的な部分に疑問を抱き、転職。	型にはめられて同じことをやる ことに違和感をもった人、富山 型の考えに共感した人。

### (3) 運営の比較

#### ① 1日の流れ

1日の流れとしては、Niのみ昼食の時間以外が自由時間となっている。また、WaとHaでは送迎時間が大まかに決まっているが、Niのみ障害の子どもの利用者が特別支援学校へ通っている関係があるため、送迎が1日を通してある。

表3-13 1日の流れ

Wa	Ha	Ni
8：30～ 送迎バス出発 9：00～ Wa到着 体温血圧チェック、自由時間 （散歩、おしゃべり、園芸、おや つ作り、お風呂、パズル、ゲーム、 歌、手芸 など） 12：00～ お昼 13：00～ 昼休み 歯磨き 14：00～ 自由時間 15：00～ おやつ 16：00～ Wa出発・ご自宅へ	8：30 送迎 9：00 血圧・体温など健康チェッ ク 9：30 アクティビティ （趣味の活動・おしゃべり・手芸・ 歌・ゲーム・将棋・おやつ作り など）・入浴 12：00 昼食 13：00 休憩 14：00 自由時間 （カラオケなど）・入浴 15：00 おやつ 16：00～ Ha出発	8：30～ 送迎 12：00～ 13：30 昼食 15：00～ おやつ 16：00～ 送迎 ※基本的に自由時間 ※送迎は利用者によって異なるた め、何時から何時が送迎というよ うな時間帯は決まっていない。 ※特別支援学校へ行っている子ど もの利用者は、放課後からNiに來 て、親の仕事の終わる17～19時 頃まで預かる。

#### ② サービス

食事については、料理担当がそれぞれWaではスタッフが、Haではボランティアが、Niではスタッフや利用者、ボランティアなどが皆で行っている。片付けも、3か所とも食器を運んだり、洗い物を拭いたりするのを利用者が手伝っている。入浴については、3か所とも、利用者の様子を見ながら、時間に縛られずに行っている。送迎については、WaとHaはスタッフが行っている。Niでは送迎担当の有償ボランティアがおり、スタッフとともに行っている。Niは、障害の有る子どもの学校に放課後迎えに行く必要があるため、その時々手の空いているスタッフが行く。泊まりについては、3か所とも基本的になく、必要と考

えてはいるが人手が足りないため行えていない。Niでは泊まりサービスを行っているが、あくまで在宅介護を希望していた人向けのサービスである旨を明確にしている。自主事業は、3か所とも介護保険外の人への利用が可能になるよう、自主事業で受け入れを行っている。また、Haでは買い物代行サービスなど、利用者のニーズに沿って作った自主事業もある。

表3-14 サービスについて

	Wa	Ha	Ni
食事	<p>時間：12：00～</p> <p>場所：食堂、ドライブしてそこで食べたりする（海王丸など）</p> <p>天気や利用者さんの体調を考慮して行く</p> <p>準備：スタッフさんの当番制（大体決まっている）</p> <p>片づけ：同じ</p> <p>メニュー：当日か前日に、当番の人が決める（冷蔵庫にあるもので作ったりする）</p> <p>料金：600円</p>	<p>時間：12：00から利用者もスタッフも揃って</p> <p>場所：フロアで食べる</p> <p>準備：ボランティア1, 2名。利用者が手伝うこともある。</p> <p>片づけ： 〃</p> <p>メニュー：他の施設でまとめて作って、Haで盛り付けしている</p> <p>Haの畑でとれた野菜を使うこともある</p> <p>料金：昼食620円(おやつ代込)（希望者：朝食350円・夕食600円）</p>	<p>時間：12：00-13：00</p> <p>場所：フロアや、隣の公園、ドライブ先</p> <p>準備：スタッフ、利用者、ボランティア</p> <p>1日目…Mさん（火・金曜の有償ボ。20年来ている）、Iさん(利用者)</p> <p>2日目…Yさん（月・水・木曜の有償ボ）</p> <p>片づけ：スタッフ、利用者、ボランティア</p> <p>メニュー：MさんはNiへ来始めてから長いので、家で考えてきている。</p> <p>料金：介護保険、自立支援の枠内に収めている。</p>
入浴	<p>一般浴、個室。</p> <p>体調を見て、シャワーのみにするなど臨機応変に対応する。</p>	<p>リフト浴。</p> <p>様子を見て大体決まった順番に入る。浴槽はひとつで、1人ずつゆっくり入る。</p>	<p>個室。</p> <p>ひとりずつゆっくり入る。ショートステイの方やお泊りの利用者は、夜に入ることもある。</p>
送迎	<p>車台数：3台</p> <p>担当：スタッフ3人</p> <p>時間：なるべく希望に添う。</p>	<p>車台数：大1台、中3台</p> <p>担当：ほぼスタッフ。</p> <p>時間：住所を考慮して順番を組んで回り、乗り合わせる。ご家族の要望に合わせることも。</p>	<p>車台数：3台</p> <p>担当：有償ボランティア男性2人や、スタッフが状況を見ながら行っている。</p> <p>時間：希望の時間に合わせる。</p>
泊まり	<p>基本的になく、どうしてもという人だけ。1日だけであれば、代表が宿直する。</p>	<p>していない。</p> <p>要望は出てはいるが、現状は難しいためする予定は無い。</p>	<p>木～日曜で定員3名と言っているが、実際は3人以上になる日も多く、木～日曜以外も受け入れている。</p>
自主事業	<p>・介護保険と関係のない方（障害者・子供等）</p> <p>一時預かり…1時間300円</p> <p>幼児食事400円、送迎500円、入浴500円 など</p> <p>・フットマッサージ</p>	<p>・要支援・要介護者の利用、送迎や食事など（※表参照）</p> <p>・買い物代行</p>	<p>介護保険外の人。</p> <p>※HP参照</p> <p>他には特になし。自主事業は、利用者に寄り添って、その人その人に作られるもの。</p>
個々人への対応	<p>・他の施設が合わなくなった人や他へ行っていたが何かあって行かなくなった人が来ている。</p>	<p>・他の施設で入浴介助ができなくなった人が来たり、他の雰囲気合わなくて来たりする。</p>	<p>・他の施設でうるさく、ひどく暴れたりすることで断られてこへ来た人もいる。</p>
家族の関わり	<p>送迎時の報告</p> <p>市の連絡帳</p>	<p>送迎時に顔を合わせ、様子を伝えたり、会話をしている。</p>	<p>利用者の家族が働いていたり、利用者がスタッフの子どもであったりとなりがりがある。</p>

## ③プログラム

自由時間の過ごし方については、3か所とも行政指導などは入っておらず、自由に任せられている。これまでの変化について、3か所とも利用者のニーズに沿って新しいサービスを増やしている。今後の課題については、Waでは介護保険制度の高齢者の利用者が多いため、利用者同士で楽しめることを考えてやっていきたいと述べていた。また、富山型デイサービスならではの危険性の対処といった、スタッフの職能についても課題として挙げている。Haでは、子どもの利用者を増やしたいということと、スタッフの人手が足りないこと、利用人数に空きがあることを挙げている。Niでは、スタッフや皆で、自分の家にいるような雰囲気を出していきたいと述べていた。そして、そのようなサービスが現実では少ないことについても述べていた。

表3-15 プログラムについて

	Wa	Ha	Ni
自由時間	自由にしたいことをしてもらう。食前に口腔体操をしたりなど、状態を見ながら、体操をする日もある。	数人でカラオケをしたり、皆で何かをするのが嫌な人は一人でできることをしている。一人で過ごしている人にスタッフが声掛けをし、交流を促すこともある。	好きなことをしている。送迎ついでドライブや買い物に利用者も着いて行くなど自由にしている。
これまでの変化	・新しくできたサービス …訪問美容や、お買い物ドライブなど。お出かけや行事の追加料金なし。	・新しくできたサービス ①買い物代行サービス ②朝食サービス ③営業時間の延長 ・現状として難しいこと …宿泊サービス	・新しくできたサービス ①ちーむむら（自立を目的にした活動） ②通住み慣れた場所、通い慣れた場所、慣れた場所で泊まれるようにしていった。
今後の課題	・富山型の個性であるが、利用者さん同士のトラブルがある。スタッフが手薄になるところで起きやすい。利用者双方にスタッフが説明をして解決する。夏休みなどには、子どもの利用が増えるためトラブルが起こる。	・子どもの利用について、住民票が富山になく預けられない人々の受け皿になりたい。子どもの利用がもう少し増えれば、子ども同士でも遊ばせられるのでどんどん増えるのでは。 ・人手が足りない。 ・利用人数に空きがある。	・共生している空間をつくること。相互に役割を持っていて、共生が成り立っている。それをスタッフが見守り、褒めてあげたり、きっかけを作ったりしている。 ・日常生活で自分の家にいる雰囲気を支援する。しかし、その人の生活に寄り添ったサービスが、現実にはないのではないか。

## ④その他

地域との関わりについては、3か所ともボランティアの受け入れをしている。また、WaとHaでは「ししまい」が来ており、近所の人に知ってもらうきっかけになっている。利用者募集については、WaとHaはケアマネージャーを通して利用者が集まっている。それに対して、Niでは宣伝などはしていないが、利用者も定員いっぱいまで断っている。Niは開設して長いことや、テレビなどのメディアの出演が多いことが理由であると考えられる。行事やイベントについては、3か所とも恒例行事がある他に、その日になって急にどこかへ出かけることを決めるといったことを行っており、イベントの企画などを柔軟に行うことができている。

表3-16 プログラムその他

	Wa	Ha	Ni
地域との かかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ししまい。</li> <li>・ボランティアの受け入れ。</li> <li>・2,3年前に、近所に公民館ができたため今後利用したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ししまい</li> <li>・保育園の園児が散歩に遊びに来る</li> <li>・ボランティアの受け入れ、近所との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なボランティアの受け入れ</li> <li>・地域からの賛否両論はあり、普段からのつながりはないが、地域にこういう場所があるということが大事。</li> </ul>
利用者の 募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度の利用者はケアマネージャーを通して知る。</li> <li>・障害の利用者は、相談所や親同士の情報ネットワークで知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「在宅介護者の集い」で呼びかけたりした。ケアマネージャーを通して、他の利用者への紹介が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宣伝はせずに、必要とした人が来られるような場所にすることが大切。毎日申込みがあって、いっぱい断っている。こういう場所がもっと増えなければいけないと思っている。</li> </ul>
行事や イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>あれこれと新しい事を増やすより、毎年同じ事をした方がよいと考えている。トイレの場所がわかっていることなどが大切になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春には獅子舞。外出なども、利用者さんの体調や天気等を考慮して、積極的に行っている。前もって計画するのではなく、急に決めて外出することが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立山少年自然の家 など</li> </ul>

#### (4) 3ヶ所の比較まとめ

富山型デイサービス「Wa」「Ha」「Ni」の3施設の比較から、様々な違いや共通点が明らかになった。そこからそれぞれの長所や短所・今後の課題を考え、富山型デイサービスの必要性を明らかにする。

まず、利用者の比較について、利用者の居住地がWa・Haでは市内の近隣がほとんどであるのに対し、Niでは市内の端から端までといったように広範囲にわたっている。このことから、今回の分析をするにあたり、Wa・Haの「地域型デイサービス」と、Niの「広域型デイサービス」とに分類してまとめを行う（以下、「地域型」「広域型」とする）。「広域型」が広域で利用されている要因として、「テレビで見てここへ来たいと思った」と利用者が言うようにメディアの影響があったり、障害の子どもや利用者の母親がデイサービスと関わっていくうちに、最終的にスタッフになったりといった特別なつながりがあることが考えられる。そして、利用者構成についても「地域型」においては介護保険制度適用の高齢者の利用が大半を占めているのに対し、「広域型」では、障害の利用者が介護保険の利用者よりも多くなっているという特徴がある。また、「地域型」では他のサービスや施設を利用者が都合によって使い分けているが、「広域型」においては、他のサービスや施設の併用は少なく、そこのみ通っている利用者が多くみられた。これは、「広域型」の「預かりではなく、最期まで見続ける」といった考えや理念に基づいており、利用者もそこを我が家のように考え、通うのを楽しみにしている様子が伺われた。

次に、スタッフの比較では、スタッフの居住地が、「地域型」では近隣であるのに対し、「広域型」のスタッフは、利用者の居住地と同様にメディアを通して知り、働きたいと思って県外や遠方から来たスタッフが多くいる。また、働いている理由も「地域型」では求人募集を通じて富山型デイサービスをなんとなく知り、働き始めた人がほとんどであったのに対し、「広域型」では富山型デイサービスの考えに共感し、そこで働きたいという意思を持って来

ている人がほとんどであった。

最後に、プログラムの比較では、「地域型」では、自由時間や食事の前後などに何をするかスタッフが決めているのに対し、「広域型」では、食事時間以外は基本的に自由時間で、決まったことをしていない。しかし、高齢者や障害者、子どもが共生することで自然と家庭の中にいるようなやりとりや関わり合いが生まれ、自然な時間が流れていた。また、「広域型」では障害の利用者の割合が高いため、サービスについても障害の利用者を対象とした自主事業が新しくできたり、送迎等においても障害の子どもの利用時間帯が放課後であるため送迎時間がバラバラであったりというように、利用者構成の違いによるニーズに沿ってサービスが異なっている。

以上のような相違点が見られたが、共通点として、一つ目に、「大規模な施設で、1日の流れが決められており、それに沿って利用者全員が同じ決まったことをさせられる」といった大規模な施設の運営に疑問を抱いて、小規模なデイサービスに転勤してきたといったスタッフがいるといった点で共通している。これは、富山型デイサービスの元来の理念そのものであり、「地域型」において障害者や子どもの利用者が比較的少なく、また地域特性に応じて変化していった富山型施設ではあるが、富山型デイサービスのベースとなる「一人一人を大切にす」という考えをきちんと残している。二つ目に、他のデイサービスが合わなくて来ている利用者がいるといった点で共通している。一般のデイサービスではうるさくしたり暴れたりして困り者として扱われていた人が、富山型デイサービスに来てからはそれを個性として認めてもらえる、また、大人数で何かをすることが苦手を感じる人が、富山型デイサービスでは好きなことを自由にさせてもらえる、といったように、在宅を続けたい人が自分に合ったデイサービスを選ぶことができるといったように、富山型デイサービスが選択肢の一つとなっている。三つ目に、介護専門スタッフ以外のボランティアの受け入れが柔軟であることである。ボランティアの受け入れにより、調理や遊び、見守りに当たる人員が補われ、上手くスタッフの負担を軽減している。四つ目に、危険の対処方法について、スタッフがその都度相談しながら見守り、対処しているという点で共通している。また、スタッフが富山型の研修を受けることで、障害に関する知識を補っている。

## 第4章 富山型デイサービス事例での参与観察調査

### 4-1 インタビュー調査の概要

#### (1) 調査対象の特徴

氷見市は富山県の北西部に位置し、能登半島の基部に位置する市である。平成27年現在の人口は49,830人である。そのうち65歳以上の人口は17,521人、高齢化率は35.1%となっている<sup>\*9</sup>。現在、氷見市には4か所の富山型デイサービスがある<sup>\*10</sup>。

このうち、Haは平成28年4月に氷見市のNPO法人デイサービスWakが開設した2つ目の施設である<sup>\*11</sup>。NPO法人デイサービスWakは平成16年に設立され、氷見市で初めてとなる富山型デイサービスを開設した団体で、老人保健施設に看護職として10年勤務したN氏がたちあげた<sup>\*2</sup>。Haの営業時間は8時から18時(希望により対応可能)、定休日は日曜日、お盆、年末年始、利用人数は1日に20人までとなっている。Haの特徴として、赤ちゃんか

らお年寄りまで誰でも利用できることと、家庭的な雰囲気の中でのんびり過ごすことの2点が挙げられ<sup>\*3</sup>、どちらも富山型デイサービスの特徴に当てはまる。

Haの近隣には中学校や消防署があり、周りは水田に囲まれている。また、WakとHaの距離は車で3分程度の位置にある。建物については、元々理事長の所有する土地（農地）を使い新しく建てた。普通の家のような造りで、利用者の使う空間には和室も洋室もあり、大きなソファを囲んでテレビを見るなど家庭的な雰囲気がある。また、富山県産の杉を使っており、県の森林組合からの補助も出ている。裏庭には畑があり、夏はししとう、ミニトマト、ひまわりなどを育てていた。冬に向けて大根や小松菜の種を植えていた。

Haのスタッフ数は常勤が6名、非常勤が5名で、デイサービスWakのスタッフとも自由に行き来することができる。利用者は全員氷見市に住んでおり、送迎サービスを使う人や、家族が送迎している人もいた。ボランティアの方は3人いて、お味噌汁を作ったり、畑のアドバイスもしたりしていた。

## (2) インタビュー調査の実施方法

富山型デイサービスの富山県氷見市稲積にある富山型デイサービス「Ha」で見学とインタビュー調査を行った。

### ①調査の目的

富山型デイサービスが行っている「その人らしさ」を重視したサービスについて実態を把握するとともに、富山型デイサービスが利用者の方に与える安心感が「居場所」としてどのような意味を持っているのか、またそのためにスタッフがどのような努力・工夫をしているのかを調査した。スタッフが担っているすべての過程に参加し、参与観察調査と聞き取り調査を行った。

### ②調査の対象者と調査項目

スタッフ5名と理事長、利用者のご家族1名、ボランティアの方3名にお話を聞くことができた。調査項目は、スタッフの特徴と意識、理事長のお話、ご家族のお話、ボランティアのお話、参与観察による事例の実態である。調査の実施は、平成28年9月5日(月)～9月10日(土)全日9時から18時である。

## 4-2 調査の結果

### (1) スタッフの特徴と意識

質問項目は表のように①スタッフの特徴、②利用者のために配慮したこと、③利用者と接するときに行っている努力工夫、④Haに対するスタッフの評価でまとめた。

#### ①スタッフの特徴

Haが富山型デイサービスであるからという意識があって働き始めた人は5人中2人である。2人はどちらも、大人数の利用者がいる病院やデイサービスでの勤務経験があり、業務のやり方などにポジティブに富山型の利用者との接し方に魅力をもち転職している。

表4-1 調査対象(スタッフ)の特徴

スタッフ	性別	勤務年数	勤務の経緯
スA	女性	11年(育児休暇1年取得)	・Wakに勤める前は大きな病院で働いていた。しかし納得できない部分などもあったため転職した。
スB	女性	7か月	・もともと工場で勤務していたが、転職した。父が亡くなったことから、利用者に施設で辛く過ごすよりも笑って過ごしてほしいと感じた。ここではそのお手伝いができると思った。
スC	男性	4年	・介護がしたかったわけではなく初めは家の手伝いだと思って始めた。
スD	男性	5年	・もとは大規模なデイサービスで勤務していたが制度の縛りがあったことに疑問を抱いた。自分がやりたい介護を求めて富山型デイサービスにたどりつき、Wakで働くようになった。
スE	女性	9か月	・あるボランティア団体に所属している友人がいて、その友人からWakを紹介されて働くようになった。

## ②利用者のために配慮したこと

スタッフとして、利用者のために特別に配慮したこと、実施したことをみると、「畑で野菜などを育てる」と答えた方が3人、「カラオケをする」と答え方が2人であった。

畑の話題を出すほとんどの利用者が興味を持って話している印象を受けた。特に男性利用者と話すときは話題づくりとしても良いと思った。カラオケは、テレビにつないでマイクも使って歌うものである。テレビに大きな字で歌詞がでるので歌いやすくマイクが回ってくると照れながらも嬉しそうに歌っていた。普通に歌うよりもマイクがあるとまた違う楽しさがあると考えられる。畑で野菜を育てることもマイクを持って歌うカラオケも利用者の主体的な行動を引き出しているように推測される。

表4-2 利用者のためにやってよかったこと

スA	・畑をやったこと。畑が好きな人も多くて上手に教えてくれる。
スB	・カラオケ 声をだすきっかけになる。
スC	・畑 昔を思い出すきっかけに繋がる。
スD	・畑 男性にとって役割になる。利用者に種を植える時期などを相談したり、アドバイスをもらいながら一緒にでたりするところが良い。
スE	・カラオケ、みんなで口ずさみながら歌える。

## ③利用者と接しているときにしている工夫

氷見弁を使うことを意識していると答えた方が2人いた。また、意識していなくても、皆氷見弁を使っている印象を受けた。調査日もスタッフ全員が利用者1人1人に「〇〇さん、おはようございます。」と声をかけていた。利用者がくると、コーヒーや紅茶を勧めるのだが、スタッフは利用者の好みを把握しているが、毎回何を飲むか、コーヒーに砂糖やミルクを入れるかを聞くこともコミュニケーションのひとつとして大事にしているように感じた。お手伝いについては、やってもらったほうがいいということだった。お願いされることを嬉しく思う利用者もいるようだ。家では危ないからなどの理由でできないこともHaではできるので楽しみにしている方もいるようだ。利用者も自分の仕事だと思ってやり終わると満足感

を得られる。ただし、身体の都合などによりお手伝いができない人もいるので、その人たちが嫌な思いをしないようにさりげなくお願いするのも大切だと回答したスタッフもいる。

表4-3 利用者と接するときに行っている工夫

スA	・最初はやりたくないって言っても隣に座ってやってみたらやり始めてくれることもある。いろんなことを勧めてみるようにしている。わがままもその日に応じて聞いてあげられる日は聞いてあげるが、無理な日はうまく納得してもらえようように説得する。
スB	・笑顔が大切、氷見弁を使って話す。横に座って一緒にテレビを見ながらお話するだけでも大事。お手伝いはできる人には積極的にお願する。自分の仕事だと思ってやってくれるし、お願すると嬉しそうにしてくれる。 ・たまにむっとすることがあっても、「〇〇な面もある〇〇さん」というふうに個性として認める見方をするという理事長の考えをスタッフ間でも共有している。
スC	・挨拶が大事。あんまり聞きすぎないように答えやすい会話から。話しかけたあとの聞くことが大事。自分がここにいってもいいと思えるように。男性の利用者には男同士の悩みを相談する。トラブルが起きてでも納得できるまで話し合う、 ・解決することで安心感にかわる。毎回うまくいくわけじゃないから、この人とはどうやって関わったらいいいのかなっていうのを考えて実践してみることが大事。
スD	・氷見弁を使うようにしている。言葉遣いは丁寧。職員が間に入れるならケンカもあり。Haにきて、それがはげ口になるなら嬉しい。今は段々と人が増えてきて、前程一人にあてられる時間がなくて難しい…
スE	・目線を合わせて話すように、歩く時も寄り添うように。お手伝いはやってもらったほうがいい。認知症とかで家ではやらせてもらえんことも、Haではできるから楽しみって言うてくださる方もおる。利用者さんが満足しとられるんを見るがも嬉しい。

#### ④Haに対するスタッフの評価

Haの良さとして、利用者との距離が近いということが挙げられており、勤務年数の長短に関係なく評価されている。また、身近にいるからこそ、利用者の趣味ややりたいことややってほしいことが理解でき、1人ずつのニーズに対応できるというスタッフBの意見に繋がるのではないかと。

Haの利用者や人柄の良さも評価されている。最初にお試して1度利用したり家族に見学してもらってから通所を決めてもらう。

他にもHaでは自由度の高さが見えた。利用者と一緒に梅ジュースづくりやおはぎづくりをして食べている利用者も楽しそうにしてくれるのが嬉しい(スタッフD)とのことであった。

表4-4 Haに対するスタッフの評価

スA	・利用者との距離が近いところ。身近におれる気がする。 ・Haでは、子供を連れてきてもいいので、働きながら子育てできたところが助かった。
スB	・1人1人の要望を叶えてあげられるところがいい。
スC	・富山型だからという理由じゃなくて(Haの)内面(人柄とか)に魅力を感じて来てもらえるところ。
スD	・普通の施設では食べ物は制限も多いけどHaでは結構好きにやらせてもらえる。
スE	・雰囲気が暖かくて家庭的。食事と一緒にとるし、なんだか身内のような感じ。

## (2) 理事長の考え

### ①富山型デイサービスを始めた理由

Wakでは一般浴で、身体の不自由な人はスタッフが腰を痛めるなどの危険性がありできなかった。しかしお風呂とデイサービスはセットが普通であり利用者の家族の希望を叶えたいと思った。そのためにも入浴設備を整える必要性を感じた。他の設備も整えることで様々利用者のニーズにこたえられるのではないかと考えた。また、デイサービスは自然な形を目指した。子供や障害者、高齢者など様々な人が混ざっていることは自然な環境である。逆に同じ年代ばかりの人だと緊張する気がする。みんな、自然であることに惹かれていて、自然体でいれることに心が安らいでいる。一歩家の外に出たら見栄をはったりして気を遣うことも多いし、家の中でお嫁さんに気兼ねして過ごすこともあると思う。そんな時、誰にも気兼ねしないような安心できる場所が自宅以外にあったらいいのではないかと考えた。

### ②Haの良いところ、めざす方向

みんながリラックスしているような雰囲気があり、一人ひとりにあてられる時間が長いところがよい。ここでの人間関係でお互いが成長できると思う。また、利用者として接していると皆、自分と向き合ってほしいと思っているのを感じる。明日も楽しい気持ちにさせてあげられるようにしたい。

### ③特に配慮していること

真剣に利用者の話を聞くことを大事にしている。「年をとると、何かしたいことある？」って聞いても「なーん、ないわあ」と言って持ってない人が多い。やってみたいことや行きたいところを見つけてほしい。できることを制限しないように、思い込み介護はしない。今まで打ち明けていないことを打ち明けられるようになってもらえたらいいと思う。利用者の話を否定しないようにする。また、老人会と関わりもあるが、知らない人がHaに入ってきたら利用者も緊張してしまう。家にお客さんが来たときみたいに…だから関わりが沢山あればいいというわけでもないと思っている。他のデイサービスでうまくいかんでHaに来た人も多しリラックスできることが重要だと思っている。

## (3) 家族の考え

### ①利用者との関係や利用理由

1人目は母が利用しているというFさんに話を聞いた。もとは、Wakにいたが、HaができてからはHaを利用しているようだ。

表4-5 利用者との関係性

家族	利用者との関係	利用理由
家族F	利用者：母/話を聞いた方：息子/一緒に住んでいる	以前は違う富山型にいたけれど、構ってもらえない時間が増えたのか認知症が進んだ気がした。Wakに知り合いがいたこと、お母さんの故郷だったことも理由。

## ②Haに対する家族の評価

Haの良さとして1つ目は時間の融通が利くところである。その日の気分によって行く時間を決められるのは家族にとっても助かるし、利用者も気持ちよくHaへ行けることに繋がっているのではないかと考える。またFさんはギターを弾くのが趣味でHaでも時々マイギターを持って演奏をしている。演奏をするのは決まっているわけではなく自分の時間があるときにする。いきなり演奏が決まることもある。演奏する曲は童謡や昭和の曲から、今流行っている曲まで様々であった。利用者からのリクエストの曲なども演奏しており喜ばれていた。

## (4) ボランティアのお話から

質問項目は表のように①ボランティアの特徴、②他にしているボランティア・普段していること、③Haでボランティアを始めたきっかけ、④Haに対する評価、⑤Haでやりたいこと、⑥あなたにとってHaの存在はどういうものか、でまとめた。

## ①ボランティアの特徴

話を聞いたのは3人とも80代の女性であった。Iさん以外は決まった日にきてもらっており、前月に都合の悪い日を確認して、シフトを出している。

ボランティア歴が1番長いのはHさんでWakでもボランティアをしていた。

表4-6 ボランティアの特徴

ボランティア	年齢	家族構成	参加頻度	ボランティアを始めた時期	内 容
ボG	83歳	娘家族と同居	週3回	Haができてから(H28.4)	利用者と一緒に味噌汁をつくる。食事の片付け。利用者とおしゃべり。
ボH	81歳	夫(83歳)と二人暮らし	週2回	3～4年前	利用者と一緒に味噌汁をつくる。食事の片付け。利用者とおしゃべり。
ボI	80代	長男夫婦と同居	週2回程度	Haができてから	利用者の話を聞く。 Haの裏庭にある畑をしている

## ②Haでボランティアを始めたきっかけ

Gさんはとは以前から繋がりがあった。また、GさんもHさんも理事長に声をかけてもらったことが大きなきっかけではないかと考える。Iさんは家の近所にHaがあったこと、畑という自分の強みを活かせる場があったことが良かったと考える。また、スタッフの方に声をかけてもらい、行きやすくなったと考える。

表4-7 Haでボランティアを始めたきっかけ

ボG	以前、夫がWakを利用していたが、亡くなり、自営業をしていたが、やめてから他にすることもなくなって寂しくなった。娘と理事長が友達で、なにもすることがないならボランティアにこないかと声をかけてもらった。認知症予防にもなっている。
ボH	以前は東京で暮らしていて福祉関係の仕事をしていた。富山にうつってきて、福祉関係のボランティアをしたいと思い、地域包括センターに行くと、年齢的にも自分が介護される側になってなかなか見つからなかった。そんな時に理事長が声をかけてくれたのでWakへ行くようになった。

ボI	年を取ったら行動範囲が狭くなる。でもHaは家の前なので近所なところが行きやすかった。同年代の方とお喋りも楽しそうだった。
----	--

### ③Haに対する評価

Haにいる人たちの人柄の良さと回答したのが2人いた。一緒に過ごす人が好きであれば居心地も良くなるので居場所づくりには重要であると考え。利用者本位なところについてはボランティアの目から見ても感じるほどにHaのスタッフが利用者のために働いているのが伝わる。

表4-8 Haに対する評価

ボG	Haにおる人たちの人柄が好き。職員の人はみんな優しい。寂しい時間もわすれることができ楽しい。
ボH	利用者本位であることがとてもいい。また利用者が束縛されていないところも。みんないい人たちばかりでHaで過ごす時間が楽しい。
ボI	ご近所にあるところがとてもいい。Haで過ごす時間も楽しい。

### ④Haでやってみたいこと

普段通りの時間をスタッフや利用者で過ごしたいということであった。何かをするという理由だとその時しか行く必要がなくなってしまうが、Haでは利用者で過ごすだけでよく、その中で誰でもできるようなお手伝いをして過ごすことができる。このような気楽に参加できるというのも居場所には必要であると考え。畑の世話をしているボランティアの方は苺を育てて皆で食べたいと話していたが、これは自分で考え、実行したことである。ここでも利用者だけでなく、ボランティアの主体的な行動を導いている。

表4-9 Haで実施したいこと

ボG	特にこれやりたいということはなく、やってみたいというよりは、自分こそ教えてもらいたいことが沢山ある。
ボH	大きなことをしたいわけではなく、利用者と一緒に普通に過ごすのが良いと思っている。折り紙だったり、野菜を切ることだったり自分よりも利用者のほうが上手。体にしみついたことは取れないから自分のほうがいろいろと教えてもらっている。
ボI	自分の家で育てたいちごの苗を持ってきて植えさせてもらった。大きくなって利用者が喜んでくれたら嬉しいと思っている。

## 4-3 参与観察による事例の実態

### (1) 事例(利用者Jさん)

Jさんは、80代男性、週5(月～金)でHaを利用している。ある日、お昼寝をしていて、おやつの時間になり起こしても起きなかった。みんなが食べ終わりカラオケをしている時に起きたとき放っておいたと勘違いしてしまったのかカラオケのときも機嫌が悪かった。Dさんが「どうかしましたか」と声をかけると怒り出してしまった。Dさんと1時間ずっと話をしてしたが解決はせず、帰る時間になり明日は理事長と話すと帰った。理事長と話すま

ではスタッフが一人ひとり話を聞いていたが解決はしなかった。だが理事長と話すときも落ち着いたようでDさんとも仲直りしているようだった。

これに対し、スタッフの感想は、「Jさんは人一倍繊細なんだと思う。納得できるまで話し合えば解決できたときそれが安心感にもなる。日常生活と一緒に送ることで距離も縮まって心を許してくれるようになるという繰り返しだと思っている（スタッフC）」、「JさんはHaができてからすぐの利用者。前に比べたら人数も増えてきて、使える時間が少し減ってしまったということもある。Haがためているストレスのはけ口になってくれたらいい。大声も出してきていい（スタッフDさん）」。

## (2) 事例(利用者Kさん)

70代男性、週4でHaを利用しているKさんは、朝、Haに来た時はソファに座ってテレビを見ているが、お昼ごはんを食べ終わるくらいになると落ち着きがなくなってしまう、ずっと歩き回ってしまうことが多い。その対処法として、スタッフやボランティア関係なく気づいた人がLさんが納得するまで着いていくようにしている。途中で「疲れんけ？ここ座らん？」などと声をかけるようにしたり色々なおもちゃを勧めてみたりする。興味を持つかどうかはその時の気分でもってすぐまた立ち上がって徘徊するが、その時も必ず誰か声をかけて付いていく。

## (3) 理事長

理事長はHaにいつもいるわけではないが来たらず横に座ってと利用者に言われている。またみんなから色々な呼び方で呼ばれている（理事長、代表、Nさん、親方等）、みんなから好かれているのがわかる。利用者との関わりについて、利用者Mさんとは、一緒にお昼ごはんを食べているときにあまり箸が進んでおらず、理事長や他のスタッフが「美味しくない？やどうした？」と声をかけるが、最近顔が丸くなってきたからという理由で半分程残してしまった。お昼寝の時間に起きていたので理事長が話しかけてお昼ごはんのことについて聞いてみると「妻が死んで毎日遺影に話しかけるけど返事返ってこんで寂しいわ…」と元気の悪い理由がわかった。「そりゃ寂しいわ、奥さんどんな人やったが？」という話で奥さんの話や昔の恋の話、私を混ぜてもらい恋愛相談などを話した。とても楽しそうに話しているようにみえた。次の日のお昼ごはんも残さず食べていた。理事長だから話したように感じた。

## 4-4 考察

まず、サービス提供の実態をみると、利用者の好きなことや興味のあることをもとに主体性を導くようにしている。家庭菜園を始めて、いつもは無口な人も昔を思い出しながらアドバイスをくれるようになったり、マイクを持って自分が主役のように歌ったり、自ら配膳を手伝ったりと利用者から動いてもらえるように仕向けていた。それを可能にするのは、スタッフの評価からも伺えた利用者スタッフとの距離の近さや自由度の高さが挙げられる。1人1人に目を向け好きなことなどを理解し実行できる場が必要だ。それが富山型デイサービスにはあると思われる。

また、富山型デイサービスが利用者の方に与える安心感が「居場所」としてどのような意

味を持っているのかを考察すると、1人1人と向き合ってもらえる場所であることで居場所になっているのではないかと考える。自分のところまで来て視線を合わせて挨拶をしてもらえることや、自分の好みを把握してもらっていること、話を真剣に聞いてもらえるのは誰にとっても嬉しいことである。それをHaではやってもらえて、自分を理解してくれているという安心感に繋がり、リラックスして過ごすことができる。これは居場所にとって重要なことであると思われる。

ボランティア側の意見では、スタッフや利用者で過ごす何気ない時間に意味があると思っているようだった。また、自分のできることだけをすれば良いためプレッシャーなどもないのでリラックスした場所になるのではないだろうか。他にも利用者とボランティアの間に上下関係がないことも居心地の良さには必要だと考える。何かをするといった目的がない場所であっても、ただ一緒に過ごすことを重要とした場所をつくるのは地域の居場所になる可能性を秘めているように推測される。

そのためにスタッフがどのような努力・工夫をしているのかを見ると、1つ目に氷見弁を使って家庭的な雰囲気を出している。理事長の話でも、自然な形を目指すと言っていたように、できるだけ自分の家で生活しているような雰囲気が富山型デイサービスには重要だと考える。2つ目は家ではできないことをHaではできるようにお手伝いをお願いして利用者に満足してもらえるようにし、家族に言えない不満などもHaでは喋ることができる場所にしたいということであった。これらのことからHaが利用者にとって第2の家のような場所になっていると思われる。

## 第5章 調査結果のまとめ

第3章からわかった富山型デイサービスの特徴の一つ目は小規模であることからプログラムやサービスの融通が利き、柔軟な対応ができるといった点が挙げられる。

二つ目は、スタッフの見守りによって利用者間の自然な時間の流れをつくり、利用者が家庭にいる雰囲気ですっきりと過ごすことができる点である。それによって、利用者同士が見守ったり手伝いをしたりといったように、利用者の役割や居場所にもつながっている。また、障害の利用者にとっては、有償ボランティア事業を始めとする各種の自主事業や、家事の手伝い等、自分の活躍できる場にもなっており、雇用の場の創出や役割創出、自己実現の場にもなっている。これらのことが、富山型デイサービスのよさとして挙げられる。

反対に、富山型デイサービスの問題としては、一つ目に、障害者の利用率が高くなると、スタッフの負担が増える上に、採算がとりにくいということが挙げられる。スタッフの専門知識も少なく、サービス単価も安いため、経営が苦しくなりやすく、そのバランスをとることが難しい。

二つ目に、富山型であるからこそ起こるリスクが多いことである。高齢者と障害者と子どもが関わることで、様々な危険な場面に遭遇する可能性があるため、その都度スタッフが適切に対処して、大きな事故を防ぐ必要がある。

三つ目に、事務が煩雑であることである。介護保険制度や障害の制度、健常児の利用など、事務作業に手間がかかるため、それらを解決するためのノウハウを施設間で共有し、協力する必要がある。これらの解決をすることが今後の課題として考えられる。今後、富

山型デイサービスを全国に広めるにあたっては、「地域型」が採算の面でも危機管理の面でもハードルが低く手を着けやすいため、県外においても実現可能なのではないかと考える。

第4章から言えることは、デイサービスHaでは、1人ずつに目を向け利用者の好きなことや得意なこと使って利用者の主体性を導くようなサービスを提供しているということである。主体性を導くやり方では一方的にサービスを提供するのとは違い1人1人と向き合っているため利用者は安心感を得ることができて居場所に繋がっている。また、理事長の存在もとても大きく、スタッフや利用者、ボランティアの方たち皆から好かれており、信頼されていた。そして理事長の理念がスタッフ全員に行き渡っており、自由度の高いサービスや利用者との距離が近いサービスにも反映されていた。

ボランティアの方の話から、居場所になるのに必要なこととして、何かをするわけではなく普段通りの時間を過ごすことができ近所にあり行き来しやすことが重要であると考えられる。そして、Haのスタッフや利用者の人柄の良さが良いと回答しており、一緒に過ごす人としての良さや人間関係の重要性が感じられた。

## 第6章 結論

少子高齢化が進み、様々な福祉のあり方が求められている現在、富山型デイサービスは普通のデイサービスではうまく定着できなかった人や細かいニーズに対応することができるなどの理由から需要が増えている。また富山型デイサービスの与える安心感は利用者や地域の人にとって居場所になり得ると考えており、地域の中にこのような場所が増えていくべきだと考える。

なぜ地域の人にとって居場所になるかということ、富山型デイサービスでは、自分がお世話をされるという立場だけではなく、雇用の場の創出や、お手伝いをするなどから自分の役割を持つことができ、自己実現に場にもなっているからである。また、自然体で過ごすことができ、誰かと過ごす時間の大切さを感じることができる。

そして、富山型デイサービスのような家庭的で居心地の良い場所づくりにはスタッフの働きが欠かせないものである。富山型デイサービスでは、障害児や障害者、重い認知症を持った人、ボランティアとして来ている人など様々な人がおり、ほとんどが自由時間なため、その時に予想もしない問題などが起きることがある。そのたびに富山型デイサービスの理念をしっかりと共有したスタッフが柔軟な対応を取ることによって、富山型デイサービスが運営されている。しかし、富山型デイサービスではスタッフへの負担が大きいことや、事務の複雑さ、経営面などの課題もあるため、今後も改善が必要であると考えられる。

以上のことから、スタッフの努力工夫もあり、富山型デイサービスでは1人1人に合ったサービスを提供し、利用者や地域の人々の安心感に繋がる場所となっていると考えられる。そのため地域での居場所となる可能性を持っており、さらに広まることで居場所づくりのひとつのあり方として定着するのではないだろうか。

## 参考文献・参考資料

- \*1 内閣府平成28年版高齢社会白書  
[[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf_index.html)]
- \*2 『介護サービス事業の経営実務』追録 第83～86号別冊  
座談会デイサービスの課題と将来像  
[[www.dh-fukushi.com/](http://www.dh-fukushi.com/)]  
厚生労働省 介護事業経営実態調査  
[<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/78-23.html>]
- \*3 厚生労働省 介護予防・日常生活支援総合事業  
[<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000074126.html>]
- \*4 平野隆之 『共生ケアの営みと支援 富山型「このゆびとーまれ」調査から』全国コミュニティライフサポートセンター, 2015
- \*5 とやまの地域共生  
[<http://www.toyama-kyosei.jp/>]
- \*6 ニーズに応じたサービス内容の見直し(参考資料) 社会保障審議会介護保険部会(第62回) 参考資料2-4 平成28年8月31日  
[[http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000135333.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000135333.pdf)]
- \*7 富山県「富山県高齢者保健福祉計画」  
[[http://www.pref.toyama.jp/cms\\_pfile/00003938/00837524.pdf](http://www.pref.toyama.jp/cms_pfile/00003938/00837524.pdf)]
- \*8 唐津浩(2012)『超高齢社会における高齢者の社会的孤立についての考察』奈良文化女子短期大学紀要
- \*9 平成22年国勢調査「人口等基本集計」「産業等基本集計」  
[<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/ecm/back/2012jun/tokushu/index2.html>]
- \*10 氷見市介護保険事業計画(平成27年度～平成29年度) 第6次福祉計画
- \*11 NPO法人デイサービス Wak 富山型デイサービス Haパンフレット